

バリアフリーポータルサイトの構築に関する研究

関西大学総合情報学部 正会員 田中成典
 関西大学総合情報学部 正会員 古田 均
 関西大学大学院 学生会員 吉村直記

1. はじめに

我が国は、他の先進国の中で希に見ない高齢化社会を迎える問題^{[1][2]}を抱えている。高齢化社会を迎える上で国土交通省は、平成12年11月15日に「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」（通称：交通バリアフリー法）の施行した。この法律を基に各自治体は、駅やバスターミナルなど公共交通施設を中心とした重点整備地区におけるバリアフリー化の整備を行おうとしている。しかし、このバリアフリー化の整備は各自治体が定めた重点整備地区のみで行われるだけであり、全ての道路や交差点などの歩行空間におけるバリアフリー化が行われていないために、高齢者や身体障害者にとって移動することが未だに困難を強いられている。^[3]

そこで本研究では、高齢者や身体障害者が、バリアが多く存在する歩行空間の移動負担を軽減するために、歩道や交差点などにおけるバリア・バリアフリー情報を共有するポータルサイトの構築を行う。本ポータルサイトを利用することにより高齢者や身体障害者の移動負担の少ないルートを選択することができる。また、利用者から道路管理者に対してバリアフリー化整備の道路選定の提言を行うことができる場を提供する利用者発展型ポータルサイトの構築を目指す。

2. バリアフリーポータルサイト

本研究で構築するポータルサイトは、図1に示すようにメイン画面を中心に、情報提供の場と情報交換の場から構成する。各コーナーについて前述した2つの構成に分けて以下に述べる。

2.1 情報提供の場

情報提供の場は、サイト紹介、バリアフリーって何、過去のバリアフリーNEWS、バリアフリー特集、

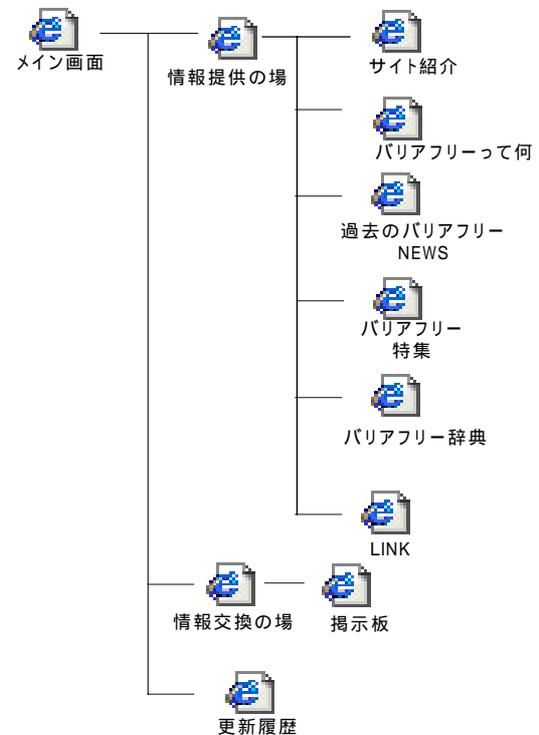


図1 ポータルサイトの構成

バリアフリー辞典、LINKの7つのコーナーから構成する。

「サイト紹介」は、本ポータルサイトが何であるかや本ポータルサイトの目的を紹介する。「バリアフリーって何」は、バリアフリーに関する基礎的な知識を説明する。そして、日頃バリアフリーに関係する出来事を伝えるために「過去のバリアフリーNEWS」を設置する。「バリアフリー特集」は、バリアフリーに関する事例や法律、サイトを特集形式で紹介する。「バリアフリー辞典」は、アクセシビリティなどといったバリアフリーに関する語句を説明する。これにより、本ポータルサイトにおけるバリアフリーに関する語句の理解不足を補い、閲覧者に内容の理解を促進することができる。

2.2 情報交換の場

大阪府高槻市のJR高槻駅と阪急高槻市駅周辺に

キーワード：高齢者・身体障害者、地区交通、バリアフリー、ポータルサイト

〒569-1095 大阪府高槻市霊仙寺町2-2-1

TEL0726-90-2404 FAX0726-90-2491

おける歩行空間のバリア・バリアフリー情報の共有を行う場を提供する。図2に示すように、情報を入力する道路を選択することで、掲示板が起動する。この掲示板にバリアがある箇所の状況や写真画像などを入力する。情報を閲覧したい場合には同様の方法によって閲覧できる。これにより道路単位での情報共有を行うことができ、写真画像によってバリアの状況が比較的容易に把握できる。また、年代別による色分けの表示を行うことにより、年代によるバリアの感じ方の違いを把握できる。

3.ポータルサイトの運用実験

本ポータルサイトは、平成14年1月10日から「バリアフリー特集」を除く情報提供の場を開設し、アクセスログを取りながら運用実験を行った。4月1日までににおける運用状況として、週に一回の割合で「過去のバリアフリーNEWS」を合計52件更新し、「バリアフリー特集」として国内外の事例を3件、バリアフリー法令関連を交通バリアフリー法の解説を合わせて2件、コラム紹介を16件、そして「LINK」を18件掲載した。本ポータルサイトのアクセス状況としては、開設から2月10日までに8件、2月11日から3月15日まで20件と少ないものであったが、情報共有の場を3月16日に開始以降から一週間あたり15件となり、3月31日だけで16件のアクセスがなされた。また、3月10日より開設した情報共有の場へのバリア・バリアフリー情報として、JR高槻駅から高槻市までの道路において3件ほどの投稿があり、全体として8件の投稿あった。その内容としては、段差バリア、違法駐車と放置自転車に関する問題に関する投稿であった。

この情報を基に JR 高槻駅から高槻市役所までの道程を調査したところ、段差や道路上の障害物の少ない経路を選択することができた。これらの運用状況により、徐々にではあるが、ポータルサイトとしての価値を見出しつつある。

4.おわりに

歩行空間におけるバリア・バリアフリー情報を共有するためにポータルサイトを構築した。本ポータルサイトを利用することにより高齢者や身体障害者の移動負担の少ないルートを選択することができた。

今後の課題としては、ポータルサイトの存在を広めるために NEWS サイトと連動したメーリングリストを設置し、利用者がコミュニティーリーダとなって一つのコミュニティーを形成する環境を作り出すために Web GIS を用いた情報共有の場を構築する必要があると考える。

最後に、本研究を遂行するにあたり（株）インフォマティクス宮嶋孝明氏（株）大塚商会大島和典氏、そして（株）栗本鐵工所岸上信彦氏から有益な助言を賜った。また、（財）国土技術研究センターから研究援助を賜った。ここに記して深く感謝する。

参考文献

- [1] 総理府内閣総理大臣官房内政審議室：障害者白書 平成12年版，大蔵省印刷局，2000.12.
- [2] 田内美彦：バリアフリーの意味とこれからの方向，土木技術，土木技術社，2000.10.
- [3] 塚口博司：地区交通に関する最近の流れ・課題と展望，交通工学，交通工学研究会，Vol.36，2001.2.



図2 情報交換の場